

#### 4. くしろ管内流通事業者インタビュー

##### <調査概要>

くしろ管内の食の加工関連各社に販路の拡大・販売強化にむけた取り組み・課題を把握することを目的に、管内の漁協・農協・商工会・行政・加工品メーカーなどへインタビュー調査を行った。

---

---

調査方法： 訪問インタビュー調査

調査時期： 平成22年10月～11月

対象者リスト

※業種別内訳

業種	数
生産者団体	5
商工団体	2
製造業	6
行政	1
合計	14

※市町村別内訳

業種	数
釧路市	6
白糠町	4
標茶町	1
鶴居村	1
弟子屈町	1
厚岸町	1
合計	14

インタビュー調査項目

- ・商品およびブランド開発の現状と課題
- ・販売促進および販売戦略と課題
- ・くしろ地域の広域ブランドについて

## 1) 商品及びブランド開発の現状と課題

いずれの業者も地元素材を生かした商品、ブランドを作り、売り出したいという意識があり、差別化できる・話題性のある・付加価値の高い商品づくりに力を注いでいるようである。

個別業者によるブランド化の取り組みの他、釧路地域ブランド推進委員会によるシシヤモ・トキシラズの認証や、市からの要請によるお菓子の開発など行政による試みも見られる。ただし、独自の製法・品質にこだわりを持つ業者からは、行政によるブランディングには同調できないというコメントも見られる。

また、地元素材を使用すること自体でコストがかかり、商品開発にも大きなコストがかかるため、意欲はあってもなかなか踏み込めないという業者も多い。

### <主要コメント>

---

- ・シシヤモ、トキシラズのブランド化を検討している。
  - ・「えもん」、「大黒」は知られてきており、これを冠にしてシリーズとして売り出す。
  - ・シシヤモの高付加価値商品開発を検討中。
  - ・東北などのイオンなどに刺身用サンマを3枚おろしにしてチルド航空便で送っている。
  - ・本州の大手スーパーにサンマの加工品を納入する予定。
  - ・釧路市の依頼でシシヤモのお菓子の要請がきている。
  - ・ナチュラルチーズコンテストで2大会連続ハードタイプ部門1位を獲得。地場牛乳と塩だけを使用し熟成期間にもこだわっている。
  - ・山漬サケ、鮭フレークは北海道認証を取得。北海道認証のイメージはギフト用で人気が出ている。
  - ・農家の人が主催・出資して「チーズをつくる会」でチーズの販売を試みている。アンテナショップ出店検討など少しずつ芽が出始めている。
  - ・資金力がないと商品開発が難しい局面があり、手をこまねいている。
  - ・常に新商品開発に意欲はあるが、こだわりのある商品を作ろうとするとパッケージ等全てにお金が掛かる。
-

## 2) 販売促進及び販売戦略と課題

楽天、自社HPなどを用いたネット販売を行っている業者が多く見られる。その他、郵便局の利用、量販店ギフトカタログ、物産展、東京の商店街での販売（イベント参加）、ホテルや流通業者への個別の展開などが行われている。

一方、地元素材による商品開発はコストが高くつくため、価格面では大手メーカーにかなわず、流通業者にはねられてしまうなど、商品開発を行っても流通に乗せるのが難しいとする業者が多く見られる。販促面では、物産展などに参加したいと思っても、人件費、運送費など大きな費用がかかるため、参加を躊躇している業者も見られる。

### <主要コメント>

---

- ・楽天「北のフードソムリエ」等への出展。
  - ・「商店街マルシェ」の一環としての東京本郷商店街のイベント「いちよう祭り」に参加（複数社）
  - ・チーズは大手メーカーには価格面で適わないのでホテル・レストランをターゲットに売り込んでいる。
  - ・大手スーパーの宅配用として「くしろ前浜の〇〇味」、「くしろ近海の〇〇味」のネーミングで販売。
  - ・関東・関西の各市場の卸業者と取引。関西圏では認知されている。
  - ・物産展や各種イベントに積極的に出展して知名度を上げたいが、採算面や費用対効果を考慮するとなかなか参加できない。
  - ・物産展などに自社出展するとお金がかかるので、百貨店などの物産展に委託をした方が品物の提供のみで済み、人件費や運賃コストがかからない。ただし、品質管理等の課題は残る。
  - ・量販店ではギフトカタログコンペで掲載してもらえるかが勝負。
-

### 3)くしろ地域の広域ブランドについて

くしろ地域の広域ブランドに関しては、“当町は全国的に認知度が低いため、「くしろ」と銘打った方が反応もあると思う”というコメントのように、広域ブランドについての必要性は大半が認めており、ブランドに対する意識を高めるための地域間の交流、振興局など推進窓口の一体化、認証基準の検討などが必要といったコメントが挙げられた。

#### <主要コメント>

---

---

- ・白糠、厚岸、浜中はどこにあるの？となるから、くしろブランドとつけた方がよい。
  - ・自社ブランドを1品ずつ取り上げてもらい、くしろブランドとして認証してもらえるのであれば協力できる。
  - ・認証制度はないよりはある方がいい。「北海道認証」は人気がある。
  - ・振興局が認定を推進できるブランドならよいのではないか。
  - ・くしろ管内の地域同士の交流の場を多く作り、幅広く意見を聞くことが大事。ブランドに対する意識を統一して、認証のルール作りが必要。
- 
-